

名前（ ） 日づけ（ / ） できた数（ /27）

使い方 声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この話の山は「掛詞」と「敬語（られ）」の二つです。

あらすじ＝母・和泉式部が丹後にいる小式部内侍に、定頼中納言が「お母さんに歌を作ってもらい使いは帰ってきましたか」とからかう。小式部内侍はその場で名歌を詠み返し、中納言は返歌もできず逃げ出した。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

和泉式部、保昌（やすまさ）が①妻（め）にて、丹後（たんご）に下（くだ）りけるほどに、京に歌合（うたあはせ）ありけるに、小式部内侍（こしきぶのななし）、歌詠（うたよ）みに②とられて詠みけるを、定頼中納言（さだよりもちゅうなごん）③たはぶれて、小式部内侍、局（つぼね）にありけるに、「丹後へ④つかはしける人は⑤参りたりや。いかに⑥心もとなく⑦おぼすらむ。」と言ひて、局の前を⑧過ぎられけるを、御簾（みす）より半（なか）らばかり出でて、わづかに直衣（なほし）の袖を⑨ひかへて、

大江山⑩いく野の道の⑪遠ければまだ⑫ふみもみず天（あま）の橋立（はしだて）

と詠みかけけり。思はずに、⑬あさましくて、「こはいかに、⑭かかるやうやはある。」とばかり言ひて、返歌（へんが）にも及ばず、袖を引き放ちて⑮逃げられけり。小式部、これより歌詠みの世に覚（おぼ）え出（い）で来（き）にけり。

語注 妻＝め。歌合＝うたあはせ。歌の優劣を競う会。局＝つぼね。宮中の女房の部屋。たはぶる＝からかう・冗談を言う。つかはす＝（使いを）行かせる。心もとなし＝待ち遠しい・じれったい。おぼす＝「思ふ」の尊敬語。直衣＝なほし。貴族の平服。御簾＝みす。すだれ。ひかふ＝引きとめる。あさまし＝意外で驚きあきれ（×あさはかだ）。大江山・いく野（生野）・天の橋立＝いずれも京から丹後へ向かう道すじの地名。

A 語句の意味と読み（1～6）

- (1) ①「妻（め）」の読みをひらがなで書け。
- (2) ②「歌合」「直衣」「御簾」の本文中での読みを、それぞれひらがなで書け。
- (3) ③「たはぶれて」の意味を書け。
- (4) ④「心もとなく」の意味を書け。
- (5) ⑤「ひかへて」の意味を書け。
- (6) ⑥「あさましくて」の意味を書け。

B 文法（7～12） ※受身・尊敬・係り結び

- (7) ⑦「とられて」を文法的に説明せよ。
- (8) ⑧「参りたりや」の「や」の種類と意味を書け。
- (9) ⑨「おぼすらむ」の「らむ」の意味を書け。
- (10) ⑩「過ぎられける」と⑮「逃げられけり」の「られ」は同じ意味である。その意味を書け。
- (11) ⑪「遠ければ」の「ば」は何形に接続し、どのような意味を表すか。
- (12) ⑫「かかるやうやはある」の「やは」の意味（疑問・反語の別）と、結びの語・活用形を書け。

C 主語と指す内容 (13～16)

(13) ④「つかはしける」とあるが、誰が誰のもとへ、何のために人をつかわしたと中納言は言っているのか。

(14) ⑦「おぼすらむ」の主語は誰か。

(15) ⑬「あさましくて」と感じたのは誰か。

(16) ⑭の「かかるやう」とは、どのようなことを指すか。

D 口語訳 (17～20)

(17) ⑤～⑦を含む「丹後へつかはしける人は参りたりや。いかに心もとなくおぼすらむ。」

(18) 和歌「大江山いく野の道の遠ければまだふみもみず天の橋立」を、掛詞の両方の意味が分かるように訳せ。

(19) ⑭「かかるやうやはある」を含む「こはいかに、かかるやうやはある。」

(20) 「返歌にも及ばず、袖を引き放ちて逃げられけり。」

E 和歌と内容・記述 (21～24) ★この話の山

(21) ⑩「いく野」は掛詞である。掛けられている二つの意味を書け。

(22) ⑫「ふみ」は掛詞である。掛けられている二つの意味を書け。

(23) この和歌で、小式部内侍は何を示そうとしたのか。四十字以内で書け。

(24) 定頼中納言が返歌もできずに逃げたのはなぜか。四十字以内で書け。

F 文学史 (25～27)

(25) この話の出典の作品名・ジャンル・成立時代を書け。

(26) 『十訓抄』とはどのような書物か、簡潔に書け。

(27) 小式部内侍の母は誰か。また、この和歌が収められている有名な歌集の名を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①掛詞は二つ＝「いく野」＝生野＋行く／「ふみ」＝踏み＋文。ここが必ず出ます。 ②「られ」は尊敬（受身ではない）。中納言の動作だから。 ③「あさまし」＝意外で驚きあきれる。現代語の「あさましい（みすばらしい）」ではありません。